

広報 いまり

昭和55年3月19日 毎月1日発行 定価1部20円 昭和55年2月1日 伊万里市役所総務部秘書課発行 No.312

暗闇に燃えあがる真っ赤な炎を囲み、
1年の無病息災を祈る「鬼火たぎ」、
そこには、ふるさとがあり、人と人との
心のふれあいの輪があります。

(写真は、大川内町岩谷の鬼火たぎ 1月7日撮影)

'55

2月

2,000隻を突破した伊万里港

1月19日、小雨まじりの伊万里湾に、開港以来2,000隻目の船が入港しました。

この船はパナマ船籍のエバークランド号(4,415トン)で、マレーシアから木材6,200立方メートルを積んで入港したものです。

伊万里港に第1船が昭和39年3月13日に入港してから1,000隻目が入港した昭和49年4月17

日までは10年の歳月を要していますが、1,000隻目から2,000隻目までは、わずか5年9か月となっています。

特に、昨年はいくまで最高の216隻が入港するなど、伊万里港は年ごとに入港する船が増えています。

これは伊万里湾を生かした基幹産業の合板企業などが発展していることを裏付けているものといえます。

2,000隻目の入港を記念して1月21日、西村助役は同船を訪れ「2,000隻目にあたる幸運の船の入港を心から歓迎します。これからも、さらに交流を深めるため、ご協力を」と、竹内市長のメッセージや記念の花束、



▲2,000隻目のエバークランド号

陶額を贈りました。

船長の馮普濟(フン・ポー・チャイ)さんは「初めて入港した伊万里で、それが2,000隻目にあたるとは、とてもラッキーだ。」と顔をほころばせながら、西村助役と堅い握手を交わしていました。

世界へはばたく伊万里に新しい希望が湧く出来ごとでした。



▲記念の陶額を贈る西村助役

久原の埠頭に海事関係の総合庁舎ができた伊万里湾内はすべからず手続きのできるようにして貰いた

これからの輸入をさらにやすし施策と共に輸出の政策が大事で、それでない過去の伊万里みなどの出船入船の繁栄にはもどせない。輸入船二〇〇〇隻の報告をきいて当初の苦労を思い出し、気付いたことがら入船のよもやま話としてつづつてみることにした。

(竹)

外国からの輸入木材を運ぶ船が伊万里港にはいるようになって去る一月十九日の入港船が二〇〇〇隻目というので記念の陶額が贈られた。

昭和三十九年合板会社誘致企業の第一号であるラックダ産業が操業を始める時、第一船が入港しているの十六年目になる。輸入船を受け入れるには入国管理事務所・税関・植

昭和三十九年合板会社誘致企業の第一号であるラックダ産業が操業を始める時、第一船が入港しているの十六年目になる。輸入船を受け入れるには入国管理事務所・税関・植

い。いまの税関の前にある記念碑の中には当時の市政の資料がタイムカプセルに収めてあって、その時に生れた人の中から五十年後にそれを開ける権利が与えられ鍵が渡されている。なお開港記念日の時、海の平安を祈って古事にならいつるぎ一ふりが海中に投げられる一幕もあった。船がはいるとその港に特別トシ譲与税が入ることになつて当時百万円からはじまつて今では一千四百万円近くになつてはいるが、これは交付税の財政収入額に見られて交付税から落されるので折角の努力が徒労に帰し、反面ギャンブル収入のあるところは何十億はいつても交付税からは差引かれることがなく矛盾も甚だし



元気いっぱい働く20歳

今年は、769人の方が晴れやかに成人式を迎えました。この中から、明日へ向って元気いっぱい働く若者3名の姿を追い、将来などについて語ってもらいました。

誇りを持って一生続ける

古賀宏隆さん(東山代町)

古賀さんは、伊万里陶業で焼きものの作りに励んでいます。入社して2年目なので、まだ未熟ですと本人は言っていますが素焼きに釉薬をふきつける手つきはなかなかのものでした。「毎日、汗とほこりに汚れていますが、この仕事は自分に与え

られた最良のものだと思っており、誇りを持って一生続けていく覚悟でいます。また20歳を迎え、これからは、今までと違った生き方をするということの自覚を持つため、人間的に自分自身を厳しくきたえ、そ



の中で仕事も含め何ごとにも精一杯ぶつかっていきたい。そして責任ある行動をとりたと思っています。」と力強く語ってくれました。

笑顔と真心で仕事に励む

山下法子さん(南波多町)

山下さんは、南波多町の農協に勤めており、みんなから「のりちゃん」と呼ばれ可愛いがられています。「20歳になって感じたことは、これまで自分の行動に責任を持つという考え方にあまさがあったようです。」とのことですが、同僚の池田茂子さんは「のり子

ちゃんは若いのに考え方もしっかりしていて、自分の意見をはっきりいう人です。芯の強い、心のやさしい人です。」と、ベタほめしています。

山下さんは「人とつながりや心のふれあいを大切に、笑顔と真心で仕事に励みます。」と話しておられました。



農業経営に情熱を燃やす

井手さんは、農業後継者として梨(75アール)、みかん(85アール)の栽培に取り組んでいます。

自分が中心となって家を継がなければと高校1年の時から農業に励むことを考えていたというだけに、農業経営に情熱を燃やしておられます。

井手英二さん(波多津町)

20歳になったのを機会に、これまでの農業経営を一步前進させようと、山を開墾して50アールの畑作りに励んでおられます。「果樹を中心に畑作をして、いかにその範囲で反当りの収穫を上げるか努力したい。」と話しておられました

本当にたのもしい後継者です。



寒さなんか吹きとばせ

全児童が半ズボンの松浦小



▲半ズボンで元気に駆けまわる松浦小の児童

寒さなんか吹きとばせと、松浦小学校（池田吉康校長＝325人）では、全校児童が半ズボンで勉学や体力づくりに励んでいます。

子供たちは登校すると、男も女の子も活動着の半袖シャツと半ズボンに着替えます。

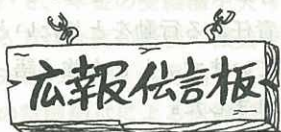
同校では、うがい、歯みがき目の体操などの健康教育に力を注いでおり、健康優良校として5年連続の表彰も受けました。

今では風邪をひくものも少なく、流感時でも学級閉鎖したことがないそうです。

トンテントンの陶額ができました

白壁土蔵を背景にくり広げられる勇壮なトンテントんけんか祭り。このけんか祭りを描いた高級額縁入りの陶額ができました。ご希望の方は市同和対策課（☎②111、内線244）へご連絡ください。

（絵、村岡一先生 45cm×50cm）



「伊万里走ろう会」会員募集

「伊万里走ろう会」が発足し、男子40歳以上、女子20歳以上の会員を募集中です。入会希望者は2月24日、11時に市民会館前へ。（連絡先・鈴木登 ☎④4776）

野球審判員を募集

市公式野球審判協会は新会員の募集を行っています。

今年は具体も開催され、2月には審判講習会も開く予定です。（連絡先・副島英彦、市役所市民課 ☎②111、内線215）

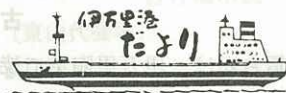
バスケットボール愛好者集まれ!!

具体にむけて猛練習中です。スポーツ愛好者なら大歓迎。毎週水、金曜、午後7時30分から伊中体育館で練習していますので、希望者をご参加ください。

市の人口

（2月1日現在）

| | | |
|---------------|----------|-------|
| 総人口 | 61,250人 | (+55) |
| 男 | 29,044人 | (+21) |
| 女 | 32,206人 | (+34) |
| 世帯数 | 16,340世帯 | (+20) |
| 市民課調べ、()は前月比 | | |



12月

貿易実績は51億6,772万円で前月比23億7,130万円の増。開港以来第3位を記録した。

〔輸出額〕 29億9,640万円

〔輸入額〕 21億7,132万円

〔船舶の入港〕 12隻（日本船2、外国船10）

〔寄港地上陸許可者数〕 256人
フィリピン120、インドネシア53、韓国69、中国14

青年団交通安全キャンペーン



地区別飲酒運転検挙者数

（昭54.12.31現在 伊万里警察署調）

| 地区 | 1月～11月 | 12月 | 累計 |
|------|--------|-----|------|
| 伊万里 | 4 | 0 | 4 |
| 大坪 | 5 | 0 | 5 |
| 牧島 | 14 | 0 | 14 |
| 立花 | 8 | 1 | 9 |
| 大川内 | 1 | 0 | 1 |
| 黒川 | 7 | 0 | 7 |
| 波多津 | 4 | 1 | 5 |
| 南波多 | 9 | 3 | 12 |
| 大川 | 4 | 0 | 4 |
| 松浦 | 3 | 1 | 4 |
| 二里 | 6 | 0 | 6 |
| 東山代 | 13 | 0 | 13 |
| 山代 | 11 | 1 | 12 |
| (市外) | 36 | 4 | 40 |
| 計 | 125人 | 11人 | 136人 |

市職員(土木工手)の採用試験

市職員(技能労務職土木工手)の採用試験を次のとおり行います。

▲試験区分と採用予定人員

土木工手……男子1名
(道路の維持補修、自動車運転などの業務に従事します)

▲受験資格

昭和29年4月2日から昭和36年4月1日までに生まれた方で普通自動車運転免許取得者(今年4月1日現在、1年以上の運転経験者)学歴は問いません。

その他、居住地について制限があります。

▲第1次試験

- 日時 3月2日(日)9時
- 場所 市役所4階大会議室
- 内容 高卒程度の一般的知識知能テスト、及び体力テスト(2次試験は1次合格者に通知)

▲受付期間

2月4日から2月16日まで

2月の市民会館行事予定

- 毎週金曜日 10時～13時
運転免許証更新時講習会
- 3、10、11、17、23、24日
アマチュア無線技士講習会
- 6日(水)13時～16時
交通安全県民大会(佐賀県)
- 7日(木)12時～16時
身だしなみ講座(資生堂)
- 11日(月)13時～17時
子供映画(富士映画社)
- 19日～21日 9時～17時
沿岸荷役主任者講習(港湾労働災害防止協会佐賀県支部)

▲受験手続

申込書の請求、提出及び問い合わせは、市役所総務課職員係(〒848伊万里市立花台1丁目1番1号、☎③2111内線418)へ。郵便で請求される場合は「採用試験申込書請求」と朱書し、60円切手をはったあて先明記の返信用封筒を同封すること。

入居者募集

(県営住宅)

▲場所 岩栗ヶ丘第2(弁天町)

▲募集戸数 11戸(3DK、3LK)

▲入居資格

- (1)同居、または同居しようとする親族(内縁、婚約関係を含む)があること。
- (2)現に住宅に困っている方。
- (3)収入基準に該当していること。
(例・扶養親族3人の標準世帯で年収240万1,999円以下)
- (4)公営住宅入居者のうち、2K、2DK、2LDKに4人以上同居している世帯で、3DK3LKに入居希望の方。

▲申込手続

入居申込書に次の書類を添えて提出してください。

- (1)昭和54年中の収入を証する書類(源泉徴収票か市町村交付の所得証明書)1通
- (2)住民登録謄本1通(婚約者は仲人、双方の親の承諾書)

▲申込受付期間

昭和55年2月12日～2月29日

▲申込書の交付及び受付場所

伊万里土木事務所(☎③4151)

民俗資料館だより

歴史民俗資料館は昭和55年度の企画展として「炭鉱資料展」と「伊万里の町家展」(仮称)を計画し、資料の調査収集をしています。

お宅に資料(道具、記録、写真、絵など)がありましたら、資料館へご連絡ください。

(資料館☎②7105、内線49)

県営住宅 11戸

市営住宅 24戸

(市営住宅)

▲場所 立花団地

▲募集戸数 24戸

一般住宅=18戸

母子世帯=2戸

老人世帯=2戸

特別低家賃住宅=2戸

▲入居資格

県営住宅入居資格の(1)～(3)と同じ。なお、老人世帯住宅については、上記のほか65歳以上の入居予定者がいること。

▲申込手続

入居申込書に次の書類を添えて提出してください。

- (1)昭和54年中の収入を証する書類(源泉徴収票か市町村交付の所得証明書)1通
- (2)住民登録謄本1通
- (3)自分の住所、宛名を書いた官製ハガキ
- (4)現住所付近見取図

▲申込受付期間

昭和55年2月12日～2月29日

▲申込書の交付及び受付場所

市役所建設課建築係(☎3-2111内線226、331)へ。

ありがとう あなたの善意

心あたたまる町の話

～その13～

ふるさとを美しい町に

駅の清掃を続ける山代中学生徒会

ふるさとは自分たちの手で美しくしようと、山代中学校の生徒会（342人）は清掃奉仕活動に励んでいます。

これは、山代町の玄関口にあたる久原駅を3年前から清掃しているもので、このほど、この善行が認められ、門司鉄道管理局長から表彰を受けました。

同校の生徒の約3分の1は列車通学をしており、生徒会で毎日利用する久原駅をきれいにしようと話し合いがなされ、始めたものです。

清掃は毎週木曜日と土曜日の放課後に、全校生が割り振りの当番制で行っています。

生徒会長の林利信君（3年）は「以前はたばこの吸いがらや

紙くずなどが散乱していましたが、今は少なくなりました。これからも山代中学校生徒会の行事として、いつまでも続くよう後輩に受け継いでもらいたい。」と語っていました。



▲久原駅を清掃する山代中学生徒会

奉仕する心を養い輪を広げる

人形劇に取り組む南波多中奉仕クラブ

奉仕する心を養い、大きな心を持つ人になろうと活動に励んでいるクラブがあります。

このクラブは、南波多中学校の奉仕クラブ（古賀伸之部長ら9人）で人形作りと人形劇に取り組み、このほど前平保育園児や波多川小学校などの児童たちに、その成果を披露しました。

同クラブはこれまで校内

の花壇作りや畑の耕作、清掃などの奉仕活動に励んできましたが、地域にも奉仕の輪を広げようと思ったものです。

クラブ担当の吉永節子教諭は「表現活動も育てながら奉仕できるものと、昨年4月から人形劇に取り組ませています。」と話しておられ、発ぼうスチロールで人形や動物を作り、保育園などにプレゼントを続けながら人形劇の練習に励んできたとのことでした。

舞台は美術クラブの協力で出来ただけに立派なもので、すばらしい演出に園児や児童たちは寒さも忘れ、目を輝かせながらみていました。



▲園児や児童たちに人形劇をみせる奉仕クラブ



▲769人が大人の仲間入り (1/15)
市会館で行われた成人式には、今年成人となった人たちが集い、明るい笑い声が響いていました。

いま伊万里で



▲大坪公民館で書きぞめ大会 (1/6)
児童生徒の書の上達と豊かな情操を養おうと新春書きぞめ大会が開かれました。



▲若者の声を市政に (1/13)
伊万里青年会が提唱した「新春を語ろう会」では市長を囲み、80年代の展望などを語り合いました。



▲市長を囲む新成人のつどい (1/9)
今年成人式を迎えた皆さんが市長を囲んで、大人になった感想や、将来の希望などを語り合いました。



▲消防出初め式 (1/6)
市民の安全を願って活躍する、消防団員九八五人が勢ぞろいしました。



▲中島杯ロードレース開催 (1/15)
成人の日に行われるレースも今年で十五回目。寒い中で元気いっぱい力走しました。

伊万里市訪中団 報告

市は、初の訪中団を11月8日から22日までの15日間派遣しました。これは日中平和友好条約を契機に、中国との友好親善と相互の理解を深めようと、竹内市長を団長に市内各界層代表28名によって編成されたものです。訪中のあらまは次のとおりです。

環東中国海を 伊万里湾開発の方向に

今回の訪中目的は、わが国と中国との友好と貿易の進展を考えると、環東中国海を伊万里湾開発の方向とする伊万里としても、中国と交流のキッカケ

をつかもうと派遣したものです。

具体的には、陶磁器生産の最大都市である景德鎮市と友好姉妹都市を結ぶ可能性を見出すことと、名村造船所に技術研修生を受け入れるための話し合いがなされました。



ようえいほう
▲楊永峯景德鎮市長と友好の握手

姉妹都市の実現に努力

楊永峯景德鎮市長は「伊万里市とはこれまでにない友情を感じました。市の大小、磁器生産の歴史での長短は問題ではない。姉妹都市を結ぶことにはいろいろ問題もあるが、お互いが友情を深め努力しあえば、その実現は可能であろう。」と力強く述べられました。

今後も友好を深めながら姉妹都市実現をはかるため、関係機関に働きかけることが大切です。

造船技術の研修生を招へい

中国造船技術研修生の招へいを市と名村造船所が申し入れをしました。

孫平化中日友好協会副会長は「心から感謝します。協議できしだい3名を派遣したい。」と言われました。

現在、55年度友好事業として受け入れるために条件などの話し合いが続いています。

交流に多大の成果

強い友好と友情を

中国人民の熱烈な歓迎をうけ深い友情を知るとともに、中国国家建設のために近代化をめざし、一致団結と勤労に汗を流している実情をつぶさに見ることができました。

特に、若い人達が日本を学ば

うとする意欲の強さには感心させられました。

過去、日本と中国はしばらくいまわしい時代がありました。数千年の歴史をひもといて考えるとき、両国国家の国情の違いはあるにしても、両国民の友好と友情は深めなければならないと強く感じられました。



そんへいか
▲孫平化中日友好協会副会長を表敬訪問する訪中団

中国見聞記 国・町・人づくり

国づくり

1964年、第3回全国人民代表大会で、当時の周総理は「4つの近代化」を唱えました。

そして今後10年間で「農業、工業、国防、科学技術」の近代化を全面的に実現させ、中国の国民経済を世界の前面に立たせるという構想を実現させるうえで鍵となる10年であると述べました。

その後「4人組」の妨害と文化大革命の試練をくぐり抜け、1976年10月の「4人組」粉砕後は、中国人民は総力をあげて

町(村)づくり

労働力、賃金、資材などを合理的に活用する「人民公社」を中心に、町(村)づくりがおこなわれています。

「食糧を要として全面的な発展を図る」をスローガンに、公社経営による工場なども作られ地方工業の重要な担い手となっ

近代化をおし進めています。

中国は、いままさに全面的な開花の時期を迎えようとしていることが、各都市を訪問してうかがえます。

ています。

また、商業を営み、学校教育を行い、病院経営や民兵組織を持つなど、人民公社はまさしく「農・工・商・教・医・兵」を一つに結びつけた総合的な行政の末端単位です。

農業は大寨に学ぶ…自力更生
工業は大慶に学ぶ…工農都市をスローガンのもとに、町づくり、村づくりが進められており現在では中国農業は食糧の自給が達成され「食の問題」は基本的に解決されたといわれています。



▲町づくりの母体「人民公社」

人づくり

小学校(5年)、中学校(3年)、高校(2年)を含め、すべての学校教育に国家意識を徹底して植えつける教育が行われていました。

そのため、小学校のときから政治学習や道徳学習の教育を、週2~5時間ぐらい取り入れています。

小学校、中学校の児童たちの中から選抜された者は、特技を伸ばすために放課後、それぞれに少年宮で書、絵、音楽、武技、工作などの特別な教育を受けていました。

日本の学習塾と比較して英才教育の考え方が全く異なっているようでした。

また、文化、芸術の面でも、「4人組」追放後に大きな変化が起っており、4人組時代に弾圧されていた文学者の復帰とともに、近代的音楽や演劇の上演古典劇の復活上演も多くみられるようになっていきます。

訪問先の指導者は異口同音に、「解放前に比べると天地がかえるほどの変化だと言っても過言ではない。」と話していました。

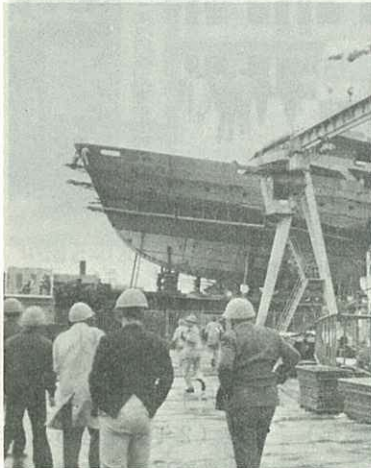
また、住宅建設(7年計画)が推進されているのが目につきました。



▲政治学習に励む子供たち

新生中国の主要都市を訪ねて

上 海



▲従業員9,000人の上海造船所

上海は、中国最大の総合工業都市で、古くから重要な貿易港として栄えてきました。

中国の三大直轄市の一つで、10区10県からなっており、人口は1,000万人を超える世界第1の都市となっています。

中国の工業先進地区としての上海は、技術、装備や専門知識をもつ優秀な人材と、より多い財政蓄積を全国に向けて提供することが要請されています。

上海市内の発展によって、郊外の農業もめざましい発展を促されています。

周辺農村地帯には190余の人



▲三輪タクシーが走る上海の街

民公社があり、36万haの膨大な耕作面積を経営しています。

また、上海は文化都市としても、中国で最も重要な都市となっています。

長 沙

長沙は、湖南省の省都で人口約70万の都市です。

春秋戦国時代からの長い歴史を有しており、1972年に長沙市東郊で発見された馬王堆漢墓は

2,100年前に埋葬されたものでした。出土品の保存の状態は極めて良好で、当時の工芸技術の優秀さをしのばせています。

特に、2,100年前に埋葬された女性のミイラが、いまもなおその当時のままの姿で保存されているのには、見る人々を驚嘆させます。

毛主席の革命前の足跡として、母校の第1師範学校や工場などが多く残されています。

長沙市は、重化学工業の発展がめざましく、鉄鋼、機械、化学な



▲伝統産業の刺しゅう

どの大工場がたくさん建設されていました。

また、伝統工芸の刺しゅうは「湘繡」と呼ばれ、湖南省の特産品で歴史も古く、精巧なものが作られています。

郊外の人民公社では、淡水魚の養魚を基幹として、養豚などの多角経営が注目されました。



▲淡水魚を養魚している人民公社



景徳鎮

景徳鎮は、江西省北部にある人口25万の都市で、中国第一の陶磁器の町として世界的にも有名なところだ。

市街地はやきもの窯の煙突が林立しており、市民のほとんどが磁器生産に関係があるといわれています。

景徳鎮のやきものは、2,000年の古い歴史をもっており、すでに1,000年ぐらい前には相当の規模で磁器が生産されていました。

現在は国営の工場が15箇所あり



▲花びんの絵付をする若い女性

南昌

南昌は、江西省の省都で人口約50万の都市です。

街は漢の時代から栄え、すでに2,000年以上の長い歴史を持っている都市です。

南昌は革命の中心地となったところで、1927年8月1日、周恩来の率いる革命軍は武装蜂起を執行して南昌を解放しました。

これが有名な「八一起義」で現在でも8月1日は、中国人民解放軍の建軍節となっており、南昌は中国革命史の転機と今日の解放軍の輝かしい伝統の第一歩となった地です。

解放後は工業が発展し、トラ

り、磁器の種類のは中国磁器の集大成といえるほどです。

代表的なやきものは青花（染付）、色絵、彩釉であり、景徳鎮の磁器は「玉のように白く、鏡のように明るく、紙のように薄く、音色は磬の如し」と形容されています。

原料の高冷（カオリン）鉱石は周辺に無尽蔵にあり、それが

景徳鎮をやきもの町として大きく発展させたものといえます。

生産額（1972年価格）は約2億元（日本円＝320億円）で、そのうちの約70％は輸出向けの生産です。



▲縫製工場働く女工員

クター工場や自動車工場などがあります。

緑茶の産地で、手すき紙も長い伝統があります。



▲陶磁器工場の燃料(マキ)運搬

景徳鎮の陶磁器生産を参観して感心したのは、後継者の育成に非常な努力がなされているということです。陶磁器学院（短大）で徹底した専門教育（製土成型、彫刻、絵付、工場設計など）をしていることと、各工場では親子あるいは祖父、子、孫と三代が同じ職場で同じ技法に愛情を注ぎながら伝承している様子を見て、優れた製品ができるのがわかりました。

北 京

北京は、世界でも有数の古い歴史と文化を有する都市で、中華人民共和国の首都として飛躍的な発展を続けています。

人口は約750万人で、上海に次ぐ中国第2の大都市です。

街には古代建築と近代建築が



▲中国のシンボル「天安門広場」

みごとに調和した風格ある建築群（民族文化宮、民族飯店、北京駅、天安門前広場、人民大会堂、革命博物館、歴史博物館、人民英雄記念碑、首都体育館、毛主席記念堂など）がつぎつぎと建てられています。

北京には、中国共産党中央委員会、国務院、全国人民大会堂など政治上の重要な諸機関が集まっています。

また、北京大学や清華大学など、多くの高等教育施設があります。



▲国内外から観光客がいっぱいの「万里の長城」

中華人民共和国の首都に定められた北京の天安門広場には、新中国の国旗である五星紅旗が涼風にひるがえり、古都北京は新生中国の首都として栄えています。

中国観 理解と親善で真の中国を

中国の姿は、とみに増加した中国旅行から帰った人々によって、さまざまに報告されていると思いますが、中国については日本人の経済感、生活感による尺度のみで、表層的観察や旅行

におもねる考察で判断することは好ましくないと考えられます。

中国の歴史と現実を分析し、革命を経て近代化の路線を進んでいる中国人の尺度で中国をみることも必要だと思います。

行動様式の決定的な違いがありますので、正常な日中関係を維持するとともに、あらゆる面で友好事業を続けながら、双方の理解と親善を深めていくことが真の意味での中国を知ることと思います。

中国旅行の心得

◆服装については、公式のレセプションなどは別として、あまり派手なものを着ない方がよいようです。中国の人達は皆んな質素です。

◆水、食事が急変するので腹をこわしたり、非常に乾燥が強く昼と夜の温度差が大きいために風邪ひきや咽を痛めますので、常備薬を必要とします。

◆米の質が少し悪いのと、朝食は必ずお粥ですから、梅干、ふりかけなど持参すると重宝です。

このような二つの尺度で中国をみないと、ゆがめられた中国像となり、中国観となる恐れがあるのではないのでしょうか。

中国と日本との関係に限ってみても、その文化様式



▲演劇団に「交響詩伊万里」をプレゼント

中国の素顔

国民性

とても明るく素直、誠実で、誰とも気安く話し、親切です。物をもらわない、人のものを盗らないことに徹しているのでホテルでも貴重品は室内に鍵をかけないで、置きっぱなしでも安心して出かけられます。

ファッション

すべての男女が紺の詰衿の上衣とズボンをはいています。女性は若い人でも化粧をせず、男性はノーネクタイです。

物 価

米 15kg 3元(500円)
 豚肉 1kg 2元(330円)
 扇風機 200元(33,000円)
 自転車(23,000円~29,700円)
 時計(16,500円~19,800円)
 テレビ 白黒14インチ(70,950円)
 ステレオ (1,200,000円)



▲生活に欠かせない朝市

労働・所得

賃金体系は8階級制で、職種で10~30種に分類されています。定年は男子60歳で、女子は頭脳労働者55歳、肉体労働者50歳。年金は最終賃金の70~80%が支給されています。

最下給 月33元(5,445円)
 大卒初任給 45元(7,425円)
 上海造船所(平均賃金) 60元(9,900円)
 市役所係長 60元(9,900円)
 上海造船所(最高技術者) 260元(42,900円)
 国家公務員(最高幹部) 400元(66,000円)

生活・結婚

家族は、平均4~5人で、子供は2人までを奨励しており、3人目を壊妊すると役所から産まないように干渉されます。

3人以上の子供には国家からの援助(託児、養育、教育など)がありません。

結婚は、男子は28歳、女子は25歳以上です。晩婚を奨励し、恋愛は自由です。

生活は1人で月15~30元(日本円2,475円~4,950円)あれば暮らせます。

家庭に冷蔵庫がないので毎朝買い出しをしています。

主食の穀物、食用油は切符制。衣類、豚肉などは配給制です。



▲中国の休日恋人

教 育

0歳~3歳まで 託児所
 3歳半~6歳半 幼稚園
 6歳半~小学校 (5年制)
 中学校 (3年制)
 高校 (2年制)
 大学 (4年制)

趣味・娯楽

ショッピングや映画、観劇を楽しんでおり、マージャンは禁止で、トランプ、中国将棋などは公園の広場でしています。

バーや飲屋はなく、晩酌も習慣で老人だけのことです。

中流家庭の生活(上海)

住宅 1DK(炊事場、バス、トイレは2世帯で共同)
 家賃 月 6元(990円)
 収入 124元(20,460円)
 主人(缶詰工場勤務) 82元(13,530円)
 奥さん(看護婦) 42元(6,930円)
 預金 30元程度(4,950円)
 目的は①国家建設②テレビ、ミシン、時計を買うため

お急ぎください

国民年金の特例納付

期限は6月30日まで

将来、このままでは年金を受けられない人を救済するため実施されている「特例納付」の期限は6月30日です。

今度の機会をのがすと、生涯、年金を受けられない、無年金者になってしまいます。

もし、あなたが過去、国民年金に当然加入しなければならなかったのに加入届を怠ったり、加入はしたが保険料を納めていないで、年金の受給権を失っている方は今度が最後の機会です。

未納の期間1か月当たり4,000円の特例納付による保険料を払い込めば65歳から年金を受けることができます。

6月までならまだ時間があると考えず、今すぐ市役所市民課年金係(☎③ 2111、内線215)へお申し出ください。



特設人権相談

人権、相続、不動産などの問題について人権擁護委員がご相談をお受けします。

〔黒川会場〕

▲日時 2月22日 10時～15時

▲場所 黒川公民館

▲担当 人権擁護委員

古竹福市氏

〔東山代会場〕

▲日時 2月26日 10時～15時

▲場所 東山代公民館

▲担当 人権擁護委員

多久島勝次氏

同和教育シリーズ No.5

学校における同和教育

市内には、小、中26の学校がありますが同和教育への取り組みのねらいや内容に基本的な違いはありません。

1. 取り組みの構成

学校教育のあらゆる機会や場をとらえて「人間尊重」の意識を育てる教育を行っています。

また同和教育をたしかなものにするため、教育のなかみの集点化重点化につとめています。

2. 文学教材による取り組み

文学教材は「人間の生き方」を豊かなイメージとして子どもたちに働きかけてくれます。

このような秀れた教材を通して「真実とは何か」「人間らしい生き方とは何か」を学習させています。

3. 人権作文による取り組み

子どもたちの夢や希望は果てしなく広がっています。

しかし、ひとりひとりの脳の中に、くすぶり続けている問題も決して少なくありませんし、このような、さまざまな問題を静かに見直し、それらをつづり、人間尊重への生きた教材として活用しています。

4. 部落問題の学習

特に社会科では、すじ道をたて

てよく考えさせるため「事実を事実として、はっきり受けとめること」や「自分たちとどうかかわっているか」などを系統的に学習させ部落問題に対する正しい認識を深めています。

5. 豊かな人間関係づくり

子どもたちどうしが、お互いに「励まし合い」「ささえ合っていく」人間関係をつくっていくためグループ学習や点検学習に力を入れています。

また「人権教室」を開いてお互いの生活を問い直しています。

6. 学力を高めるために

学級の中には、学習についていけない子どもが何人かいます。

「おちこぼれ」ような子どもに十分な光をあてて学力を高めるため複数による指導体制をとることにしています。

また解放への自覚を持たせ、その主体をつくるための「もみの木学級」も開設しています。

以上当校に於ける同和教育の一端を述べましたが、このようなささやかな実践が「人間尊重」への土壌づくりになるよう、その努力を重ねるつもりです。

(伊万里市立大川小学校)

税金の申告はお早目に

所得 税2月15日～3月15日
市県民 税3月1日～3月15日

所得税や市県民税などの申告時期がやってきました。申告もれがないよう必要な書類は早目に準備しておきましょう。

〔申告受付期間〕

▲ 所得税の確定申告と納税

2月15日～3月15日

▲ 贈与税の申告と納税

2月1日～3月15日

▲ 市県民税の申告

3月1日～3月15日

(各町での受け付け日程は2月15日号でお知らせします)

詳しくは税務署(☎③ 3147)か市役所税務課市民係(☎③ 2111、内線232)へ。

伊商・伊農・有工

定時制高校の生徒を募集

働きながら学ぶ定時制高校の生徒を募集しています。

▲ 学校名

- ・伊万里商業(商業科・夜間制)
- ・伊万里農林(農業科・昼間制)
- ・有田工業(窯業、デザインコ

ース・夜間制)

▲ 募集定員

各学校とも40名

▲ 願書受付期間

- ・1次 2月12日～2月14日
- ・2次 3月26日～4月3日

▲ 試験科目

国語、数学、外国語、理科、社会、面接と作文

※高卒資格以上の方でも職業科目の履習ができます。詳しくは各学校へお問い合わせください。

- ・伊万里商業高校 (☎③ 5191)
- ・伊万里農林高校 (☎③ 4138)
- ・有田工業高校 (☎ 09554 ③ 3136)

次の方からご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

社会福祉事業費へ

◆ 香典返しを寄付

- ・原 一雄 (大川内町平尾)
- ・亡叔父顕次
- ・中島政勝 (大坪町上古賀)
- ・亡父政重
- ・板谷キヨ (瀬戸町漁港)
- ・亡次男弘明
- ・溝上純弘 (松浦町岳坂)
- ・亡父正行
- ・仲兼久前吉 (下土井町)
- ・亡妻ナツエ
- ・川崎福次 (二里町大里)
- ・亡母トモ
- ・古賀良枝 (栄町 亡母ミ)
- ・ス)
- ・徳永七次 (大川内町大川)
- ・内山 亡妻トク)
- ・島田満男 (松浦町村分)
- ・亡祖母カノ)
- ・前田新二郎 (南波多町府)
- ・招上 亡母スガ)
- ・岩永三郎 (脇田町脇田)
- ・亡妻章枝)
- ・岩本幸男 (東山代町東大)
- ・久保 亡母キミ)
- ・日浦マキ (東山代町大久)
- ・保 亡夫文次)
- ・山口憲光 (黒川町真手野)
- ・亡母リュ)
- ・西山九蔵 (山代町西分)
- ・副島喜左エ門 (栄町 亡母クマ)
- ・大野ムメ (山代町西分)
- ・亡夫光太郎)
- ・松尾常一 (東山代町大久)

- 保 亡妻レイ)
- ・藤川博昭 (松島町上松島)
- ・亡父公輔)
- ・山口伊八 (大坪町白野)
- ・亡妻フク)
- ・橋本義子 (黒川町立目)
- ・亡父望月格太郎)
- ・大久保光雄 (立花町渚)
- ・亡父治助)
- ・松本君代 (立花台一丁目)
- ・亡夫宮一)
- ・光武勝俊 (大川内町正力)
- ・坊 亡父藤吉)
- ◆ 篤志寄付
- ・九千円 牧野敏昭 (東京都)



ありがとうございました

ありがとう

クラブ(街頭募金の益金を)

◆ 香典返しを寄付

- ・式万円 島田春水(二里町江湖辻 初生会の折の益金を)
- ・山口伊八 (大坪町白野)
- ・亡妻フク)
- ・橋本義子 (黒川町立目)
- ・亡父望月格太郎)
- ・大久保光雄 (立花町渚)
- ・亡父治助)
- ・松本君代 (立花台一丁目)
- ・亡夫宮一)
- ・光武勝俊 (大川内町正力)
- ・坊 亡父藤吉)
- ◆ 篤志寄付
- ・九千円 牧野敏昭 (東京都)

事業資金へ)

- ・式万七千六百九拾参円
- 伊万里中学校生徒会
- ・老万円 大川町青年団
- (累計四、六九二、五五八円)
- 教育振興奨励基金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・岩永三郎 (脇田町脇田)
- 亡妻章枝)
- ・徳永七次 (大川内町大川)
- 内山 亡妻トク 大川内小
- 体育館内容充実資金へ)
- ・澤田 特 (大川内町福野)
- 亡長男一郎 大川内小体育館内容充実資金へ)
- 体育振興奨励基金へ
- ◆ 篤志寄付
- ・拾万円 田尾安志・宏子 (結婚を記念して)
- ・老万円 中島紘一 (新天町六五四)
- 交通遺児救済資金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・副島喜左エ門 (栄町 亡母クマ)
- ◆ 篤志寄付
- ・五千貳百元 吉富和敏 (二里町 期限満了の拾得金を)
- 大川内公民館建設資金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・徳永七次 (大川内町大川)
- 内山 亡妻トク)
- 大坪地区社会教育
- 振興資金へ

国際児童年記念

- ◆ 篤志寄付
- ・長谷川丈夫 (波多津町木場 町体協へ指定)
- ◆ 香典返しを寄付
- ・古川久一 (波多津町井野)
- 尾 亡父末治郎 老人クラブへ指定)
- 南波多公民館
- 施設整備資金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・前田新二郎 (南波多町府)
- 招上 亡母スガ)
- 大川町つくり推進資金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・中島輝男 (大川町井手口)
- 亡父實)
- 松浦町教育振興会
- 資金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・溝江英一 (松浦町岳坂)
- 亡父仁太夫)
- 東山代公民館
- 施設整備資金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・草野栄寛 (東山代町脇野)
- 亡母ツナ)
- 山代町コミュニティ
- センター建設資金へ
- ◆ 香典返しを寄付
- ・広瀬富男 (山代町久原二区 亡父浅市)
- ・永島マツ (山代町鳴石)
- 亡夫三代治)
- ・佐々木九州男 (山代町川南 亡父嘉市)

こ だ も の ペ ー ジ

残そう“ふるさと”の伝統

伝統行事というと大人やお年寄りのものと思われがちですが、子どもが中心となって受けつがれている行事も、あちこちの部落に今でも残っています。

その中から、正月に行われるものをたずねてみました。

鬼火たきで無病息災

「パンパン」と生竹がはげしい音をたててはじけ、まだ薄暗い空をこがすかのように真っ赤な炎が燃えあがります。

今年も大川内町の岩谷部落では子どもたちが1月7日に鬼火たきの行事を行いました。

前日から田んぼの中に5mほどの高さに生竹や生木を組みあげ、その下に門松や松飾りを入れて夜明けに火をつけました。当日は、小雪のちらつく寒空でしたが、大人や子どもたち約40人が集まって勢よく燃えあがる炎に顔を赤くそめ、元気な声

でことし1年の無病息災を祈りました。

その残り火でみんなは、それぞれの家から持ちよった「もち」を焼いて食べました。

これを食べると病気をしないという言い伝えがあります。

繁栄を願いもぐら打ち

「14日はもぐら打ち。ちょうし（酒）だすか、モチ出すか、ださねば嫁ごの尻打つぞ」と子どもたちは口ぐちに唱えながら正月の14日に近所の家をまわります。

この行事はもぐら打ちと呼ばれ、女竹の先にもぐらににせたワラ束をくくりつけて、新しいお嫁さんのいる家の外庭を打ってまわります。

元気な赤ちゃ



▲楽しい鬼火たき(大川内町岩谷)

大人と子どもがいっしょになって火を囲みながら、お正月を部落あげて祝い、また、家族やみんなの健康を祈っている光景は、ほのぼのとしたものがあり心と心の温かいふれあいを感じられました。



▲めずらしい「もぐら打ち」(波多津町内野)